

### 3. まちづくりの目標と方針

#### (1) まちづくりの目標

まちの成り立ちや特性を踏まえるなかで、御代田町は町全体として、究極的に住みやすく、居住者に選ばれるまちを目指していく。

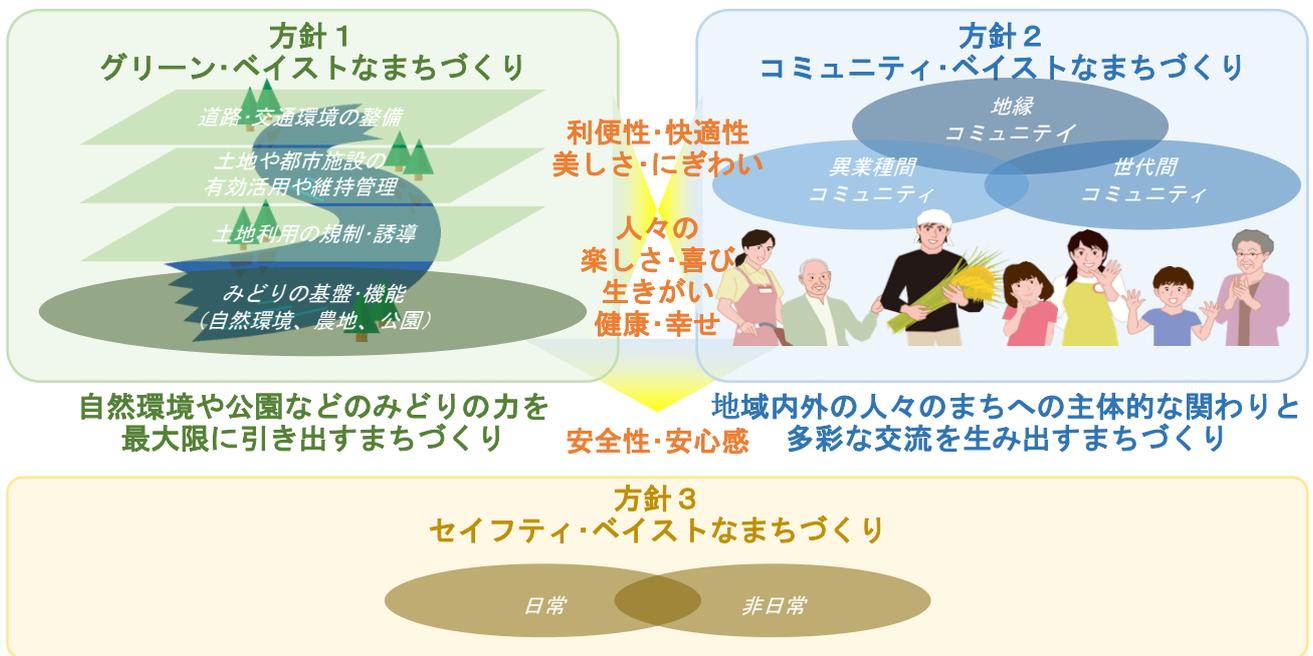
比較的コンパクトな範囲に展開する多彩な居住環境の魅力を活かし、磨き、各地域に根差した生活文化の継承と新たなライフスタイルの創出を図る。

<まちづくりの目標>

**究極的に住みやすい・居住者に選ばれるまち**

#### (2) まちづくりの基本方針

「究極的に住みやすい・居住者に選ばれるまち」として、他自治体との差別化を図り、町全体で魅力ある居住環境の継承と創出を図っていくため、今後のまちづくりにおいてとくに大事にしたい方針を以下に定める。



いざというときのリスクを低減し、日常の安全・安心を得られるまちづくり

### (3) 居住タイプごとの方針

比較的コンパクトな範囲に展開する多彩な居住環境を大きく5つのタイプに分類し、それぞれのまちづくりの方針を以下に定める。

#### タイプ1 農村集落

主な該当地区：塩野、清万、一里塚、草越、広戸、豊昇、面替、小田井  
農業や農地との調和を重視し、自然の地形を活かした立地のなかで、建物の形態的な配慮や敷地周りの緑の保全を図りながら、地域に根ざした文化やコミュニティの継承していく。



#### タイプ2 旧街道沿い

主な該当地区：馬瀬口、三ツ谷、上宿、小田井  
北国街道や中山道の街道沿いに連なる集落で、本陣や問屋など、古き時代の建物や史跡を大切にしながら、街道沿いの風情ある景観を守り、活かしていく。



#### タイプ3 まちなか

主な該当地区：旭町、栄町1・2、三ツ谷、荒町、上宿、兎玉  
駅や役場、商業施設など都市機能が集積する利便性を活かし、地域内外の多様な世代の人々が集い、交流を深め、にぎわいや居心地のよさを感じられる住環境の創出を図る。



#### タイプ4 住宅団地

主な該当地区：平和台、西軽井沢、向原  
区画整理された土地に計画的に又は整然と立ち並ぶ住宅地で、居住に特化した環境を活かし、敷地周りの緑やコミュニティの魅力で持続可能な住環境として維持継承を図る。



#### タイプ5 森林住宅地

主な該当地区：寺沢、清万、西軽井沢、向原  
森林内にある住宅地で、自然環境の保全を重視し、鳥のさえずりや樹木の香りなど、自然の営みや移ろいを感じながら、自然との共生を楽しむ暮らしを大切にしていく。



いずれの居住タイプにおいてもいまある魅力の継承と創出が必要



3つの方針に基づく取組項目と居住タイプごとに重視すべき項目を整理

《方針1》

## グリーン・ベイストなまちづくりの取組

～浅間山麓の地形や地質、水系、植生など自然基盤の機能や魅力を引き出す～

取組項目	タイプ1 農村集落	タイプ2 街道沿い	タイプ3 まちなか	タイプ4 住宅団地	タイプ5 森林住宅
① 良好な眺望景観の保全・創出	◎	○	◎	◎	○
② 農地や農村景観との調和と保全	◎	○			
③ 既存の集落・宅地内の緑の維持・継承	◎	◎	○	○	○
④ 歩きたくなるみちづくり	◎	◎	◎	○	◎
⑤ 歴史的な風情・情緒の保全・継承		◎	○		
⑥ 公共空間の緑化と維持管理のしくみづくり	○	◎	◎	○	
⑦ 民有地の緑の空間確保と地域にあった植栽	○	○	◎	◎	○
⑧ 既存のオープンスペースの魅力化			◎	◎	
⑨ 緑道や広場のある住宅地の整備			◎	◎	
⑩ グリーンインフラの導入・地域材の活用	○	○	◎	○	○
⑪ 樹林や森林景観との調和と保全	○	○	○		◎

◎：とくに重視 ○：重視



←十分なセットバックにより緑化のスペースを確保して、敷地周りの緑化の推進と緑の保全を図る。

徒歩や自転車でゆっくりと歩ける道をつなぎ、地域の自然や景観を楽しみながら歩けるウォークアブルな道でまちをつなぐ。



←建築や土木構造物に、浅間石など地域の材を積極的に取り入れ、周囲の景観と馴染ませ、地域の魅力向上につなげる。



《方針2》

## コミュニティ・ベースなまちづくりの取組

～地域内外の人々をつなぐ場やしきみをつくり、文化や産業の創出と継承を図る～

取組項目	タイプ1 農村集落	タイプ2 街道沿い	タイプ3 まちなか	タイプ4 住宅団地	タイプ5 森林住宅
① 農村の生活文化や半農半Xな暮らしに共感する 地域外住民の受け入れ	◎	○			
② 空き家や古民家を活用した居心地のよい場づくり	◎	◎	○	○	○
③ 回遊動線上のコミュニティ空間の確保・活用	◎	◎	◎	◎	
④ 地域の魅力を満喫できるしくみづくり	○	◎	○		○
⑤ 出会いと交流の場づくり	○	○	◎	○	
⑥ 地域内外の多様な人々が集う場やしかけ	○	○	◎	○	○
⑦ コミュニティの場としての公園空間の利活用			◎	○	
⑧ 多様な年齢層の居住者の共存	○	○	◎	◎	
⑨ 住民同士が程よい距離感を保てる暮らし方の継承					◎
⑩ 移住者や地域外の人々が 町や地域と関わりをもてるしくみづくり	◎	◎	◎	◎	◎

◎：とくに重視 ○：重視



←まちの顔として、駅周辺に人々が集い、地域内外、様々な世代間の交流が育まれる場所をつくる。

地域住民と来訪者が交流のできる場をつくり、地域の魅力を地域住民が来訪者に語り、来訪者から地域住民が気づきを与えられる機会の創出を図る。



←様々な人々が集い、交流を深められるコミュニティの核として、公園空間を最大限に活かしていく。



《方針3》

## セイフティ・ベイストなまちづくりの取組

～グリーンベイストやコミュニティベイストなまちづくりのもとに  
生活上必要な安全・利便が確保され、暮らしの安心が得られるまちづくりを進める～

取組項目	タイプ1 農村集落	タイプ2 街道沿い	タイプ3 まちなか	タイプ4 住宅団地	タイプ5 森林住宅
① 災害リスクの高いエリアへの 新たな住宅立地の回避	◎	○	○	○	◎
② まちの中心部への円滑な動線の確保	◎	◎	◎	◎	○
③ 若者や高齢者が使いやすい移動手段の確保・ 公共交通のしくみづくり	◎	◎	◎	◎	◎
④ 買い物など日常生活の安心確保	◎	◎	◎	◎	○
⑤ 火砕流など火山災害発生時の逃げ道の確保		◎	◎	◎	
⑥ 歩行者に優しいみちづくり	○	○	◎	◎	○
⑦ 高齢者の居場所づくり	○	○	◎	◎	
⑧ 野生生物との共存・共生	○				◎

◎：とくに重視 ○：重視



←災害時に逃げ道となる動線の安全性や円滑性を確保し、いざというときの安全と日常の暮らしの安心を確保する。

高齢者の寄り合いの場や居場所を確保し、高齢なってもいきがいをもちて安心して暮らすことのできる環境を確保していく。



←歩道の幅員や段差の解消などのハード整備や地域公共交通のしくみづくりなどを通じて、車がなくても移動の安全性や利便性を享受できる住環境をつくる。

